



とやま親学び 通信

平成29年8月10日発行
富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

暑さの厳しい日が続いていますが、推進リーダーのみなさんは、お元気でお過ごしでしょうか。「親学び講座」については、開催した学校や園の先生方から、「やってよかった」「また開催したい」などの声が届いています。みなさんがそれぞれに工夫して活動してくださっていることに、感謝申し上げます。今回の「とやま親学び通信」では、みなさんから寄せていただいた講座を進める際のこつやアイデアを紹介します。もちろん、まねる必要はありません。「こんな考え方もあるのね」という感じで、読んでいただければと思います。

グループワークを充実させるには？

【推進リーダーとしての悩み】

「たくさんの方に参加してもらいたい。せっかく来てくださるのだから、参加者にとって楽しく、充実した講座にしたい。たっぷり話し合ってもらいたい。…」と思っているけれど、「どうしたらうまくできるのだろう。今度は、どんな方法でやればいいのかだろう。」など、どれだけ経験していても、毎回、悩んでいます。



こんなことをしているよ



①受付に加わる

- ・受付で参加者を出迎えます。参加者と目を合わせて少し話しておく、落ち着いて進行できます。
- ・かたくなるしい会ではないことを分かってもらいたくて、声のトーンを上げ、笑顔で対応しています。
- ・受付で、名札（ラベルシールに、自分で名前を書いてもらい、上着に貼り付ける）をつくってもらいます。参加者との会話のきっかけづくりになります。

②準備に協力してもらう

- ・受付で名札をつくってもらうことは、主体的に参加しているという感覚をもってもらうことにもつながります。会場準備に協力してもらうことも、有効なので声をかけてやってもらっています。

③会場の雰囲気をつくる

- ・飲み物やお菓子を準備しています。使う部屋も「家庭科室」を選びました。リラックスした雰囲気ができ、どのグループも話が弾みました。
- ・講座の名前を「おしゃべりサロン」としてみました。BGMを流すことで、話しやすい雰囲気になりました。



④自己紹介カードを工夫する

- ・うさぎ、コアラ、ねこ…などのイラストを入れた自己紹介カードを用意しています。「うさぎさんから自己紹介をしてください」という感じで使うと、例えば男性の先生が「私がうさぎさんなので、私から」と言われるだけで、それだけで和やかな雰囲気になります。

気を付けていることは・・・



⑤時間を有効に使う

- ・後半の発表タイムがないことを最初に伝え、グループワークに集中してもらえるようにしています。
- ・発表にあまり時間がとれない場合は、グループワークでの様子を見て、全体で共有したらよいと思う意見が出ていたグループに発言してもらいます。

⑥先生方の協力を得る

- ・スマートフォンに関するエピソードに入る前に、学校がまとめた「メディアについての調査結果」を示し、話し合う必要感を感じてもらいました。事前の学校との打ち合わせの中で、先生方から提案いただきました。
- ・先生方にエピソードに関する子供たちの様子を話してもらっています。
- ・先生方に1人の親としての立場で、グループワークに入ってもらいます。若い先生も、親となった自分を想定して話してくださったり、子供の気持ちや代弁してくださったりします。「先生との距離が近くなった」と、参加者にとっても好評です。

